

新年度に向けて

くるみ福祉会 理事長 北丸 浩一

社会福祉法人くるみ福祉会は、この四月で事業を開始して二二年目を迎え、夢工房くるみの前身である『くるみ共同作業所』の開所から数えると四十年目という大きな節目を迎えることになります。

利用者数名と職員一名から始まった無認可共同作業所（くるみ共同作業所）は時を経て、現在は夢工房くるみ（利用者四一名と職員二六名）、くるみの樹わかば・つぼみ・ホーム旭ヶ丘（利用者二二名と職員二九名）に至りました。

事業を拡大するにつれ、利用者支援の内容はこの四〇年での変遷は目を見張るものがあります。開所当初の職員への呼び方は『〇〇先生』が主流で、支援学校（当時は養護学校）を卒業されての利用のため、利用者さんやご家族さんにとっては職員（当時は指導員）をその延長線上での呼び方になっていったようです。

私たちは、先生ではなく共に歩み成長していきますので『〇〇さん』とお呼び下さい、とよくお伝えしていました。今も無認可から利用されておられる方は『〇〇先生』とお呼びになり、私も迂闊にも『はい』と返事をしてしまいます。当時は利用者さんの呼び方も様々で『〇〇さん』は基本ですが、愛称で『〇〇ちゃん』とよく呼んでいました。これは、現在でも呼んでしまいがちなため職員全体での周知徹底を行い常に意識して取り組んでいます。

支援をしない支援

を目指して

夢工房くるみサービス管理責任者 大月 篤

私たちは所謂「利用者支援」というものを提供しています。先日、職員さんから「Aさんは能力があり、もっと（仕事が）出来るようになると思うんです」と相談がありました。Aさんは数種類ある作業に対し

話が少し逸れましたが、利用者さんへの支援も当時の『指導』から『支援』にかわり、働くことで成長・発達を目指した実践内容も、画一的な意識から個々の障害特性を重んじた取り組みへと変化しています。

くるみ福祉会では、ここ数年に渡り議論を重ね特に『強度行動障害』の方への支援の在り方を模索し、ようやく具体的な事業方針を作ることができ、理事会に提案できるに至りました。

次欄でも提案されていますが、利用者さんにとっての幸せは何かと考えた時、働くことが全てではないことに気付きます。一人ひとりが持つ要求に応えることのできる環境を整備していくことで、その方々の幸せをより具現化できるのではないかと考えています。法人理念である『くるみで過ごせて毎日が楽しい』と思える支援を念頭に新しい事業を展開していきますので、皆様方に於かれましては今後ともくるみ福祉会へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

でどれも集中できません。勿論、仕事が出るようになることは素晴らしいことです。しかし、Aさんは仕事が出るようになりたいのでしょうか？「仕事が出るようになることが良いこと」というのは私たちの価値観で、Aさんは望んでいないかもしれません。

まず、私たちはAさんに集中して仕事をする環境を提供できているのかを考えると、私たちが「楽しくない」「やりたくない」「どうしていいかわからない」状態になっているかもしれない。

「やれば出来るから仕事をして欲しい」という思いが先立って職員による必要以上の声掛けや働きかけになってしまっている場合があります。Aさんからすると「楽しくないのに：」「やりたくないのに：」「どうしていいかわからないのに：」頑張れと言われる。これはAさんにとってストレスでしかありません。まずはAさんが仕事に集中することが出来る環境になっているのかを見直し、整えていく必要があります。

強度行動障害の研修で講師の方が「利用者さんに対して支援が必要ない状態が利用者さんにとって一番良い状態なんです」と言われていました。困っているから、不足しているから支援が必要になります。

「もっと（仕事）出来るようになる」ということに能力があるか、ないかは関係ありません。それぞれの障がいや能力に左右されることなく、声掛けすら必要なく仕事に取り組める、そんな環境作りを目指して、本年度は障がい特性に合わせた環境の整備を進めていくことを大きな柱として取り組んでいきたいと思います。

< 1 >

後援会だより

No. 8 2

【くるみ福祉会後援会事務局】

〒582-0026 柏原市旭ヶ丘 3-13-82 夢工房くるみ内

TEL：072-978-3080 FAX：072-978-3081

発行日：2024/3/21(木)

発行責任者 曾奈 美章

編集責任者 青山 郁子

理念に沿った事業展開への
継続した支援を行います!!

平素は、くるみ福祉会後援会に、ご支援ご協力を賜わり心よりお礼申し上げます。

社会福祉法人くるみ福祉会は今年で二二年目を迎えました。後援会活動も同じく二二年目を迎え、当初よりくるみ福祉会の事業の発展に寄与し、支えていくことを目的とした活動を行ってまいりました。

ご承知の通り、長引く新型コロナウイルスをはじめとした感染症などの影響は、物的にも心的にも私たちに深い影を落とし、後援会の本来の目的である支援が十分に行えないもどかしさが続いております。

しかしながら、このような大変な時だからこそ、これから法人が目指す理念に沿った新しい事業への取り組みに対しての支援が必要であると感じています。

今後、法人が進めようとしている『単独型の生活介護事業（二十名定員）』や『小規模のグループホームの複数開所』『移動支援事業』など、微力ですが後援会として引き続き支援を行ってまいります。

つきましては、『くるみ福祉会後援会』の趣旨にご理解ご賛同いただき、一人でも多く方々のご支援をお願い申し上げ、本年度の抱負・ご挨拶といたします。

くるみ福祉会後援会 事務局

後援会にご入会・更新して頂いた方々

順不同 令和六年二月十三日現在

【個人】

伊藤 裕 様 守谷 勉 様
匿名様（国分市場 二口以上） 守谷 敦子 様
千田 正美 様 稲山 敏子 様
千田 奈緒美 様 濱山 広美 様
濱砂 宏之 様
ご協力ありがとうございました

令和6年度くるみ福祉会後援会への新規入会・更新のお願い

●障害を持つ方々の明るい未来を築くためには、私達だけでは力不足で、資金を捻出するのも現行の法制度では、非常に難しく限界があります。柏原の地で安心した生活が送れる事ができるよう、ぜひ皆様方の温かいご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

●ご入会・更新頂いた会費等は、新しい事業所の建設資金の一部として使用させていただきます。物価高騰の折、今後は膨大な自己資金が必要と予想されます。

度重なるお願いで申し訳ありませんが、利用者さんのより良い生活の場をつくるため、今後とも皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

【後援会事務局】

くるみ福祉会後援会へのご入会方法

【 個人一口：2,000円 団体一口：10,000円 】

●郵便振替：00980-3-74677

●加入者名：くるみ福祉会後援会（同封の振替用紙にてお振込み下さい）

●後援会事務局：柏原市旭ヶ丘三丁目13番82号 夢工房くるみ内 TEL 072-978-3080

編集後記 国会請願書名・募金活動!

●きょうさんでは今年で47回目の取り組みとなる国会への請願署名活動・募金活動を行っており、くるみ福祉会でも障害福祉関連の法制度拡充に賛同して取り組みを進めております。

●皆様方へぜひご協力の程よろしくお願い致します。

●上記事務局まで、ご郵送頂ければ幸いです。

【後援会の取り組み到達状況】

個人：132名 295口 590,000円

団体：5団体 7口 70,000円

【目標75万円】 660,000円

くるみの森

KURUMI no MORI information

「探求心」

‘より美味しいもの’を追求することが売り上げアップに繋がると信じて、現在品質向上の為に改良を重ねています。大きな変化ではなく、お菓子作りをする上での基本的なことを見直しています。

冬場はバターが固く、なかなか常温に戻りません。固いまま混ぜるとハンドミキサーのビーターに詰まったり（故障の原因になります）、卵と合わせたときに分離して膨らみが悪くなったりします。その改善策としてバターを電子レンジで軽く加熱して常温に戻しました。するとすぐにバターをクリーム状にすることができました。しかし、バターが常温になることで次は卵との温度差で分離しやすくなってしまったのです。卵は電子レンジで加熱できない為、ぬるま湯に数分間浸すことで常温に戻すことができました。これらの適切な温度管理を行なうことで、冬場の寒い環境下でも品質を保つことができるようになったのではないかと思います。

また、小麦粉をゴムベラで混ぜる際、練るように混ぜると小麦粉のグルテンという成分による粘りがでてしまう為、生地を縦に切るように混ぜることで、クッキーはサクサク、パウンドケーキはふんわりとした仕上がりになります。利用者の皆さんにも実践して頂いていますが、一度の声かけですぐにコツを掴んで実践できる方、今までのように練るように混ぜる方、様々でした。意外だったのは、ほとんど取り組んだことのない方が上手く混ぜられていたことでした。品質向上の他にもその方の作業の選択肢が広がったことは職員としてとてもうれしい収穫でした。

他にも品質向上の為に色々と試行錯誤してきましたが、それは機会があればまた書かせてもらいたいと思います。 <小林>



販売予定 [令和6年4月～6月]

- 柏原市立健康福祉センター [12:00～12:45]
健康福祉センター オアシス 3 階ロビー
令和6年4月16日(火)、5月14日(火)、6月11日(火)
- 柏原市役所販売 [12:00～12:45] ※完売次第終了
本庁1階北出入口 または 2階かしわらテラス奥
令和6年4月12日(金)、23日(火)
5月10日(金)、28日(火)
6月14日(金)、25日(火)

※変更になることもありますので、詳しくはお問い合わせください。

<一般の方向けではありませんが、
毎月こちらでも販売させていただいています>

- サラヤ大阪工場様
- 大阪府立西浦支援学校様

くるみの森の焼菓子が買えるお店

- 岡村製油 直売所「コットンハウス」様（柏原市堂島町）
- おそうざい お弁当「tant-tant」様（柏原市国分西）
- 玄米食堂すみれ様（藤井寺市道明寺）
- パンと暮らしのcoccoya様（藤井寺市道明寺）
- 市立柏原病院 売店様（柏原市法善寺）
- 国分病院 売店様（柏原市旭ヶ丘） 他

出店販売等につきましては、くるみ福祉会ホームページやくるみの森のSNS(Facebook、Instagram)でもご確認いただけます。くるみの森へ直接お電話いただいても結構です。

072-978-3082（担当：阿部）

あっと・ほーむ

グループホームの暮らし



グループホームは、日中の作業や取り組みで疲れた心身を休め、次の日もしっかり日中活動できるよう、落ち着ける環境を提供する場所であると考えています。ただ、それだけでは、メリハリのない生活になってしまうとも思います。そこで、今年度は春夏秋冬、季節に合わせた行事を行ってきました。ホームの日常ではしない内容で、戸惑うこともあったかと思いますが、皆さんが好きな、食べることを中心とした企画だったということもあり、楽しいと感じて頂けたのではないかと考えています。

新年度に向けての行事もすでに企画し始めており、昨年度好評だったものは継続し、また、新たな企画も考えていけたらと思っています。

最後に、新年度は1日でも多く利用できる日を増やし、快適で、安心して利用して頂けるグループホームを目指して参ります。

<ホームくるみの樹 管理者 塚本>



ありがとうございました

<寄付金> ◆ 令和6年2月22日 篠の会 様

<寄贈品> ◆ 令和6年1月30日 匿名 様 DVDプレーヤー

夢工房 くるみ

News
&
Reports

毎年恒例
夢工房くるみ
大忘年会!!



12月23日(土)に毎年恒例の夢工房くるみ大忘年会を行いました。コロナ禍にあっても一年間のみなさんの頑張りを共に労うため、感染症対策を行いながら続けてきました。

今年の大忘年会は、富田林市の亀の井ホテルで懐石弁当に舌鼓を打ちながら一年間の活動を振り返る楽しい時間を過ごしました。皆さんが盛り上がるのは食事後半のくじ引き大会！商品は特大のお菓子詰め合わせや、カップラーメンのセットなどを揃えました。くるみからホテルまではホテルの送迎バスも用意して頂き、片道小一時間のちょっとした旅行気分も味わえました。

感染防止対策のため全体で集まる機会も少なくっている中、「ともに」働き、過ごしていることを実感できる忘年会になりました。 <大月>



くるみの森班は、1月に新年会として外食と商売繁盛祈願へ行ってきました。食事に行った青葉仁福祉会様が運営されているカフェ・ベーカリー クラムボンには、クラシック調の建物が木々に囲まれていて落ち着いた雰囲気のお店でした。くるみの森班と同様、障害をもつ人たちが支援を受けながら働いておられ、私たちと仕事内容は違えど、自分の役割を意識し、任された仕事を全うされている姿に、くるみの森班の利用者様も何か感じる部分があったのではないのでしょうか。料理もパンも本格的で満足されている様子でした。

食事の後は、毎年恒例の商売繁盛祈願。今年は生駒の宝山寺へお参りしました。物価高で消費者側も生産者側も苦しい時代ですが、今年もたくさんの仕事を頂けることを祈願するとともに、最低でも給料を維持、できればアップできるよう様々な工夫をしなければならぬと決意する職員一同でした。 <小林>

くるみの森班

新年会

1月30日、リサイクル班は防災体験とごはんの会へ出かけました。

まず、堺市美原区にある堺市総合防災センターへ。数種類の体験コースの中から要支援避難コースを体験させていただきました。地震体験では、震度7は立っている事すら難しく、しゃがみながらも頭を手で守っている姿が印象的でした。また、暗闇避難体験では、火災時の煙で視野が遮られるので、姿勢を低くして口をおさえて逃げるように言われたのですが、これが難しい…。このような体験を通して利用者さんも職員も意識が変わったのではないかと思います。

続いて、お楽しみの串カツ食べ放題へ。自分で揚げるスタイルが初めての人もいたので作り方を説明すると、見よう見まねで上手に揚げて楽しんでいました。白ご飯とかやくご

飯の炊飯器が置いてあり、ある利用者さんから、白ご飯を茶碗に入れた後「かやくご飯も入れてもいいの？」と聞かれたので「入れてもいいよ！」と答えると、白ご飯の上にかやくご飯をのせ「こんなの初めてや！家ではできない！」と嬉しそうなのが印象的でした。食べ方に個性が出ていて、普段とは違う様子がたくさん見られ、職員も楽しかったです。 <濱野>



リサイクル班
防災体験とごはんの会